

ガーナへ行こう！学校へ行こう！

所 属	愛知県豊田市立崇化館中学校	実践者	伊藤 実知子 (G)
対 象	中学1年生	時間数	10時間
場 所	教室	実践教科	道徳・総合・学活
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・チョコレートをきっかけに、ガーナと日本のつながりを知る。 ・ガーナに興味を持ち、世界と日本の学校の違いを肯定的に理解する。 ・ガーナの小学生の現状を知り、学ぶことの大切さと貧困問題について考える。 		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1	<p>「ガーナの子どもって？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフリカに対するイメージを班で紙に書く。 <ブレインストーミング> ・その後、ビデオを視聴し、感じたことを書く。 	○ビデオ 「カカオ畑で働く子どもたち」
	2	<p>「世界の学校へいこう！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の学校について知っていること、聞いたことがあることを共有する。 <ポップコーン方式> ・2人1組みで世界の学校と日本の学校の「ある・ない」をまとめる。 <対比表> ・他のペアの対比表を見て、世界の学校について知る。 <ギャラリー方式> ・世界の学校についての感想と、ガーナの学校で見てみたいものを書く。 	○資料 「世界の学校」 (愛知国際交流協会資料)
	3・4	<p>「日本の学校を紹介しよう！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の学校について知ったことから、日本の学校特有のことを紹介する資料を班で作る。 	○備品 A4 紙、色マジック、写真等
	5	<p>「ガーナってどんな国？」 アイスブレーキング：「仲間さがし、仲間にわし」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガーナクイズ(国旗、生活、学校、食べ物、JICA、トヨタ車) ・ガーナクイズの解答・解説と実物を体感しよう。 	○パワーポイント クイズ用写真 ○実物 国旗、芸者、太鼓、FUFU 等
	6・9	<p>「ガーナの学校を紹介しよう！」 アイスブレーキング：「傾聴」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班でガーナの学校についての資料を読み解く。 <担当読み> ・自分たちが作成した「日本の学校紹介」のガーナ版を作る。 ・ガーナの学校についてクラスでプレゼンし、感想を書く。 	○資料 「ガーナの学校」 (2011 年 JICA) ガーナ研修の画像
	10	<p>「チョコレートから知る、ガーナの教育」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「69」という数字が物語るもの ・チョコレート食べ比べ(これから自分たちにできることを考える) 	○備品 ガーナチョコ(ロッテ) フェアトレードチョコ
成 果	参加型の授業で生徒一人ひとりの意見が出やすく、独りのつぶやきも拾うことができた。写真や実物に触れたり、教師の話を聞いたりすることでアフリカやガーナに興味関心を持ち、意欲的に活動できた。ガーナについて肯定的に捉えられるようになった。		
課 題	考えを深める時間や振り返りに時間がかかり、50分の授業では十分にまとめきれなかったりした。ガーナと日本の相違点に気がつき、自分たちにできることを考えることはできたが、世界やガーナが抱える問題点について深く考えることができたかが疑問である。		
備 考	クラス単独での活動であったため、時間確保に苦戦した。当初3時間程度の実践予定であったが、やり始めると伝えたいことが多く、時間確保のため生徒に負担をかけた。しかしガーナ授業を心待ちにするようになった生徒の協力で予定の倍以上の時間を確保できた。		

[授業実践の詳細]

1 時限目「ガーナの子どもって？」

1 子どもの活動の流れ

(写真①) <ブレインストーミング>

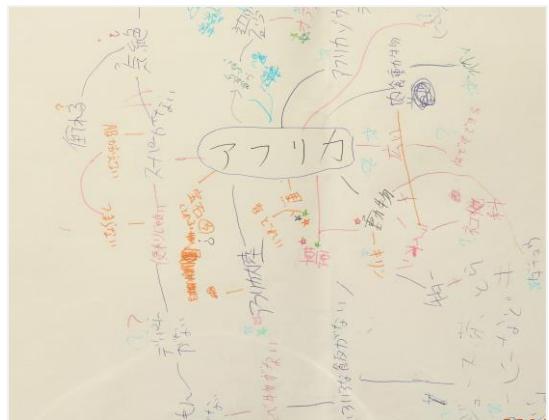
- ① イメージ…アフリカに対するイメージを班で紙に書き出す。
- ② ビデオ試聴…「力力才畠で働く子どもたち」 <教材1>
- ③ まとめ振り返り…アフリカやガーナについての大まかな情報を教師から補足説明。今日の授業から自分たちにできること、気がついたこと、感じたことを書く。

この時限のねらい

- アフリカに対するイメージをふくらませ興味・関心を持つ
- アフリカやガーナについて正しい情報を知ろうとする。
- 教育が受けられることのありがたさに気がつく。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 1班6名程度で、アフリカについてのイメージを自由に書くとき、「絶対に否定しない」「人の出した意見に同意する」というルールを提示した。そのため生徒はアフリカについてのイメージを自由に楽しんで出し合うことができた。
- ◇ アフリカは「ライオン、ダンシング、明るい人がたくさんいる、動物もいる楽しそうな国」という肯定的な見方もあるが、「紛争、奴隸、ものがない、可哀想な子どものいる国」という否定的な見方をしている生徒もいた。
- ◇ ビデオ視聴後は、「募金を始めたい」や「靴を贈りたい」など自分たちにできることを考え始めたり、自分に何ができるかを知るためにガーナを見てみたいと興味関心を持ち、自分たちにできることを考える生徒もしてきた。また、ビデオ視聴により生徒たちは自分たちが教育を受けられることが、世界では当たり前でないことに気がつくことができた。



3 使用した教材 <教材1> YouTube 「力力才畠で働く子どもたち」

2 時限目「世界の学校へいこう！」

1 子どもの活動の流れ

- ① 世界の学校…他国の学校について知っていること、聞いたことがあることを共有する。 <ポップコーン方式>
- ② 「ある・ない」…2人1組みで世界の学校と日本の学校の「ある・ない」をまとめる。<教材2> <対比表>
- ③ 世界の学校へ行こう…他のグループの対比表を見て、世界の学校について知る。 <ギャラリー方式>
- ④ まとめ振り返り…世界の学校についての感想と、ガーナの学校で見てみたいものを書く。

この時限のねらい

- 世界の学校と日本の学校の相違点を知る。
- 日本の学校の良さを再認識すると同時に、他国の良さも知り、違っていることが「良い」と捉えられるようにする。
- ガーナの学校に興味を持つ。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 参加型の授業を楽しむことができるようになり、自由に意見が飛び交うようになった。
- ◇ 世界の学校について知るにつれ、他国では「学校でお菓子を買うことできたり食べられたりして良い」「半日しか授業がないから羨ましい」など、表面的な意見が出されたが、日本の給食や掃除、部活など世界の学校にはあまりない日本特有な部分に目を向けられようになった。
- ◇ 教師が訪れるガーナの小学校と日本の学校の相違点にも興味関心を持つようになった。

ペルー の学校	
日本にあるもの／こと	日本にないもの／こと
委員会がある「赤十字」「新聞」「個人の名前や地域の名前」 教育が4つの段階 新学期は4月	中学校が「5年間」 校内に売店 先生の給料日は「学校が休み」 4学期制 自動的に進級

3 使用した教材

<教材2>(公財)愛知県国際交流協会『世界の国を知る・世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来』の15カ国(バングラデシュ・クロアチア・ヨルダン・オランダ・ペルー・ラオス・ウガンダ・アンゴラ・カ梅ルーン・ポルトガル・コートジボワール・グアテマラ・サウジアラビア・バヌアツ・サモア)の「世界の学校」についての資料

3-4 時限目「日本の学校を紹介しよう！」

1 子どもの活動の流れ

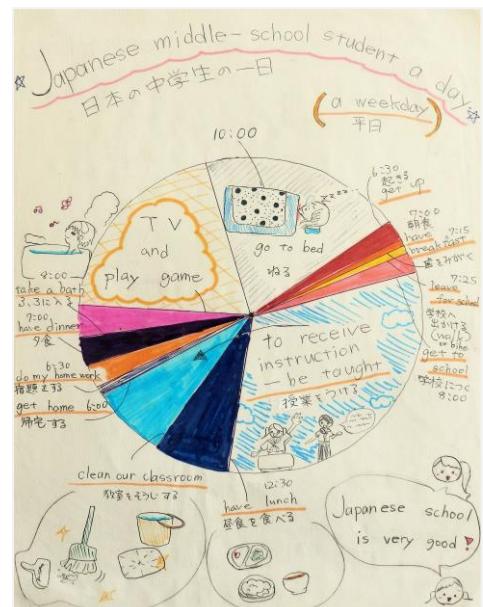
- ① 日本のここがすごい…世界の学校との対比から、日本の学校特有のことを紹介する資料案をグループで出し合う。
- ② 友達の関心を知ろう…他班の紹介とかぶらないように、クラスメートの興味関心に気を付けながら学校紹介の内容を決定する。(写真②)
- ③ 日本の学校紹介…ガーナの小学生に紹介できるように、日本の学校紹介の資料を英語で作成する。<教材3>

この時限のねらい

- 他国の学校について知ったことで、日本では当たり前のことが、世界では当たり前でないことに気がつく。
- 日本の学校の良さに気がつき、それをガーナの小学生に英語で紹介できるようにする。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 日本の学校を紹介する資料づくりの段階で「ガーナの学校はどうなのだろう？」と興味関心を持ちながら資料作成案を考えることができた。ガーナの小学校について自分たちが知りたいと思うことの日本的小学校版を資料案として考える班もあった。
- ◇ 実際にガーナの小学生に紹介するということで、現地の小学生に理解できるように英語を意欲的に活用し、使うことができた。
- ◇ 資料つくりの段階で、教師側からの指示をほとんど出さないように心掛けたため、自由な発想で楽しんで活動できた。また、生徒は自分たちで日本の学校紹介用の写真を撮影し持ってきており、放課後も資料作成に取り組んだりするなど、自主的に活動するようになった。



3 使用した教材

<教材3>東京書籍『NEW HORIZON English Course 1年生』

5 時限目「ガーナってどんな国？」

1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレーキング…「仲間さがし、仲間こわし」
お題：住んでいる町名、血液型、卵焼きに対するものなど
- ② ガーナクイズ…ガーナについての○×クイズ<教材4>
(国旗、生活、学校、食べ物、JICA、トヨタ車など)
- ③ クイズの解答・解説…教師が見てきたもの体感してきたことに解説を加えたり、実物を見せたりしながらガーナについて知る。<教材5・6>

この時限のねらい

- ガーナクイズから、ガーナについて興味を持つ。
- ガーナクイズ解答より、ガーナについての豆知識を得る。
- 日本とのつながりや相違点に気がつく。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ アイスブレーキングでは、お題の答えを連呼しながら仲間探しをするなかで、普段関わらない生徒同士で関わりを持つことができた。また自己表現・自己主張能力を養う練習もでき、「次のお題は？」という声が出るほど楽しんで活動できた。
- ◇ 半数近くの生徒にとっては、小学生時のALTがガーナ人であったため、既にガーナは馴染みのある国であった。そのためガーナについての知識があり、クイズへの興味関心が半減するかと心配された。しかしガーナ人から見るガーナと日本人から見るガーナでは見る観点が違ったためか、生徒たちに新たに情報を提供することができた。生徒たちは○×クイズの答えを知る度に一喜一憂し、新たに知ったガーナ情報にとても驚き、より一層ガーナのことを肯定的に捉えていた。また写真だけでなく、芸者の缶詰やFUFUミックスなど実物を見た時の生徒の反応はより大きかった。
- ◇ 「世界のトヨタ」と言われる豊田市民の生徒にとって、ガーナにトヨタ自動車の工場ばかりか、ディラーまでもがないことを知り、かなり驚いていた。また農業が盛んな豊田市では、普段当たり前のように目にすることのない稻作が、ガーナに技術支援されていることにも驚いていた。

3 使用した教材

<教材4>「クイズで知るガーナ」 <教材5>パワーポイント「ガーナクイズ答え」

Q2 ガーナの主食は何？

アップペレWithベベ・ティラビア
ヤム芋、プランテン(料理用バナナ)、キヤサバなどを蒸して、ついで、お餅のようにつきます。
FUFU With Goat Soup
餅つきのようにつきます！

Q8 ゾウやキリンを街で見かける

答えは、X

<教材6>ガーナ実物(国旗、芸者、FUFU、太鼓、シャツなど)

6-9 時限目「ガーナの学校を紹介しよう！」

1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレーキング…「傾聴」:お題:小学生の頃の楽しかった思い出 ☆60秒メッセージ→40秒振り戻し→10秒訂正

② ガーナの学校を知る…班でガーナの学校についての5種類の資料を各自1つずつで読み、班員に解説する。(写真③)

<教材7、8><担当読み>

③ ガーナの学校紹介作り…自分たちが作成した「日本の学校紹介」のガーナ版を作るため、教師が訪問した学校の写真から使いたいものを選別、学校紹介の資料を作る。<教材9><対比表>

④ ガーナの学校紹介プレゼン…ガーナの学校について紹介できるように、プレゼンの内容や担当を考える<教材10>。その後、クラス全体にガーナの学校について発表する。(写真④)

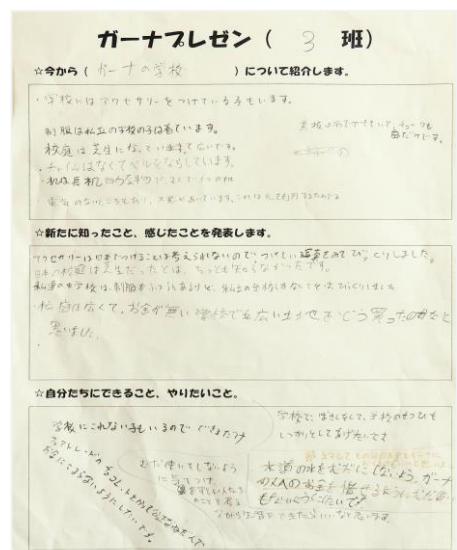
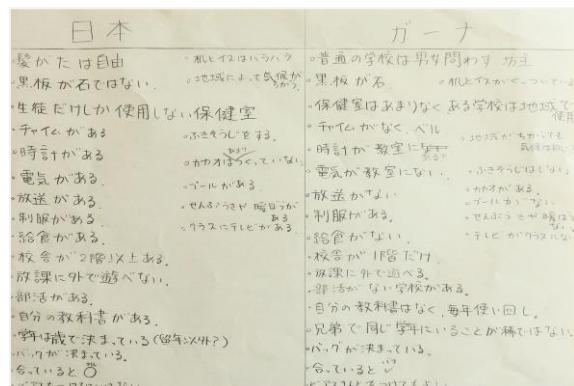
⑤ まとめ振り返り…新たに知ったこと、気が付いたことを共有する。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ ガーナの学校についての資料を班で読んだり写真などを見たりしても、漠然とした反応しかなかったが、ガーナの学校紹介作成に取り掛かると、様々な疑問が出てきた。「部活はある?」とか「掃除はする?」など具体的な質問が飛び交うようになった。自分たちでガーナの学校を紹介しようとすることによってガーナの学校を身近に感じることができた。
 - ◇ 資料作りの仕事分担に個人差の開きが出来てしまい、時間があればガーナの授業をしたいと、資料作りの中心となり積極的に活動する生徒と、人任せになり資料作りに上手く参加できない生徒が出てきてしまった。そのため、個人に合った仕事ができるようにアドバイスをしたり、プレゼン原稿作成に移るよう声掛けするなど、各班で作業をしていない生徒がないように、全体の進度把握に心掛けた。
 - ◇ 他班のプレゼンを聞き、ガーナの学校事情を深く知ることができた。それと同時に他者の発表を聞き、同じガーナの学校紹介でも、見る人によって見る観点・プレゼンする観点が違ってくることに気が付いた。

この期限のねらい

- 考へて、伝えて、聴く。コミュニケーション能力を高める。
 - ガーナの学校について知る。
 - ガーナの学校について伝える。
 - 日本の学校との相違点に気が付く。



3 使用した教材

<教材7>H25年度教師海外研修参加者が収集したガーナの小学生アンケートや夢などの資料

<教材8>JICA青年海外協力隊『ガーナの学校』2011年（教師海外研修で入手した資料）

<教材9>教師海外研修で撮影した写真 <教材10>プレゼン用紙

10 時限目「チョコレートから知る、ガーナの教育」

1 子どもの活動の流れ

- ① 「69」…この数字が物語るものを考える。
- ② どっちがお好き？…A/B のチョコレートを食べ比べ、それぞれどう違うのか、意見を出し合う。<教材11>
- ③ フェアトレード…フェアトレードについて書かれている英文を読み、フェアトレードについて知る。<教材12>
- ④ まとめ振り返り…「69」はガーナの就学率である。ガーナの現状を知り、これから自分たちにできることを考え、発表する。

この時限のねらい

- ガーナの現状に気が付く。
- チョコレートの食べ比べから、フェアトレード商品について知る。
- 自分たちにできることを考え、発表する。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 「69」という数字には全く想像もつかなかったようで、推測の答えすら出てこなかった。限られた時間の中で授業を完結させるため、考えさせる時間が十分に取れなかつたことが残念だ。
- ◇ チョコレートの食べ比べには単純に生徒たちは「どっちが高級チョコだろう？」という考え方で食べ比べて意見を出していた。A/B のチョコレートの正体を明かさず好みを聞いたところ、9割の生徒がフェアトレードチョコを好むとう結果がでた。しかし「フェアトレード」と言う言葉すら知らない生徒がほとんどであった。
- ◇ 中学校3年の英語の教科書の英文を読み、フェアトレード商品を購入することの意味を理解できた。また「69」という数字がガーナの就学率であることを知り、第1限目で視聴した「力カオ畑で働く子どもたち」と関連づけて考えることができるようになった。その結果フェアトレード商品を購入することでガーナの子どもたちの役に立てると考えるようになつた。
- ◇ 自分たちにできることとして、子どもたちの手を借りずに作られたフェアトレード商品の購入や水を大切に使うことで世界の水を節約する、お金を無駄にしない、募金をする、ランドセルを送るなどが出てきた。生徒の成長とともにこれらを実行に移していくことを願う。

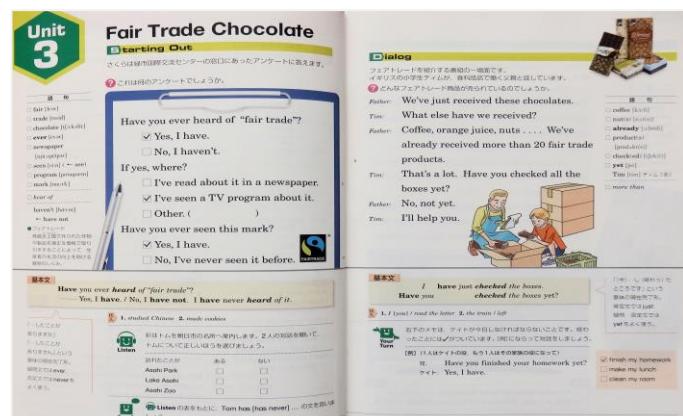
3 使用した教材

<教材11>ロッテのガーナチョコとトップバリュ

ー商品のフェアトレードチョコ

<教材12>東京書籍『NEW HORIZON

English Course3年』(右写真)



■ 全体を通して

1 授業の様子

- <写真①>「イメージ」…アフリカについてのイメージを自由に書き出す生徒たち
- <写真②>「ガーナの学校紹介作り」…ガーナの学校紹介の案を話し合う生徒たち
- <写真③>「ガーナの学校を知る」…5種類の資料をそれぞれが担当し、班員に説明
- <写真④>「プレゼン発表」…プレゼン発表する様子



2 参考文献・資料

- 1) ガーナ「69」、日本「100」の数字は何を表している?
JICA ホームページ <http://www.jica.go.jp/tohoku/event/report/yamagata/20090718.html>
- 2) フェアトレード商品 http://globalization.chuo-u.ac.jp/global_person/gstudent/2013/05/499/

以上